

作成: 芝崎

### 32. 思い出篇 : 小学校時代から思い出した事

- (1) 最近の TV で「池の水を抜く」という番組があった。増殖している外来種(ブラックバス)の駆除を目的で行い、ポンプを使って池の水を抜き、24 匹のブラックバス駆除していた。
- (2) 私が小学 6 年の頃、約 60 年前に友達と 2 人で川の流れから外れて、川からの水は少し流れているが、池みたいの状態になっている溜まりがあり、そこで釣りをしていたが、ほとんど釣れない、友達が魚いるか確認するため、水を抜くことにした。水の出入り口をせき止め、人海戦術でバケツを使って無我夢中で水を抜いたことを思い出した。成果はバケツ 2 杯分魚(鮎等小さい魚が多い気がした?)を得る。その時、バケツの中にいた小さい魚たちが、「人間はずるいやり方をするな」という目で見ていた感じがした。

一網打尽という言葉に連想したが、このケースは一水干尽という言葉が合っている気がする。

(参考)一網打尽: 一度打った網により、そこにいる多くの魚を捕える意

#### 笑いのポイント(笑点)

一:(一)度に抜いた

水:(水)により、

干:(干)したことで、<彼らの環境を破壊し>その池にいた多くの魚を一挙に取り

尽:(尽)くす事<無抵抗な状態で根こそぎ捕獲する。>



今でも小さな魚の多くの目を一度に見ると、ギョとすることがある。

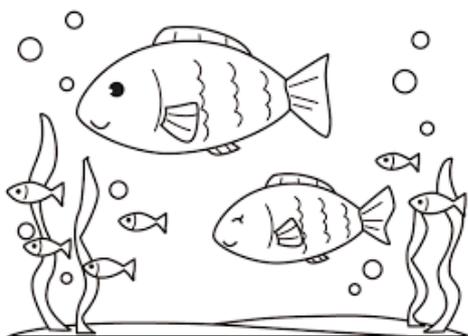
目的なく(大義名分なく)池から水を干すことはいけないことだと大いに反省している。

一網打尽は悪者を根こそぎ捕える意を示すが、一方、一水干尽は悪いイメージで

其の一定に保っている秩序(ここでは池の中)乱す良からぬ行為:根こそぎ捕まえる連中を

(ここでは我々)示す気がした。世界に目を向けると、武力、言論統制等で国民を締め付けている

一部の国家を連想したくなる。改めて、一水干尽の世界がなくなっていくこと切に望みたい。



以上